

法政大学第二中学校
二〇一四年度入学試験問題

国語 (第一回)

- 注意
- 一、受験番号・氏名は、問題用紙・解答用紙ともに記入すること。
 - 二、解答は、すべて解答用紙に記入すること。
 - 三、携帯電話など音が出るものは事前に電源を切り、試験の妨げさまたにならないようにすること。
- 万一、この注意事項を読んでいる時に電源の切り忘れに気付いたら、必ず監督者に申し出ること。

受験番号

番

氏名

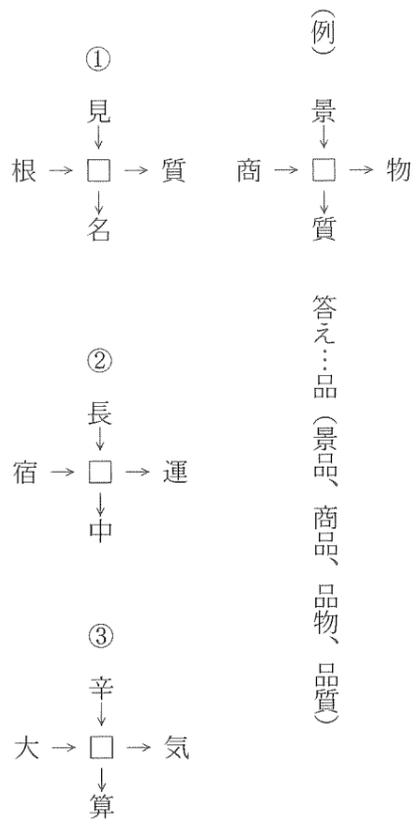
--

一、次の各問に答えなさい。

問一 次のア、オの傍線部を漢字で正確に記しなさい。

ア、山のイタダキ。 イ、能力をハッキする。 ウ、地震によるソンガイ。 エ、カメラをナイゾウする。 オ、フクスウの人と話す。

問二 次の例にならい、①～③の□に入る適切な漢字一字を答えなさい。



問三 次の①②の熟語について、組み立てられ方が異なるものを、それぞれ一つ選び、記号で答えなさい。

- | | | | | |
|---|------|------|------|------|
| ① | ア、消化 | イ、無視 | ウ、未開 | エ、不満 |
| ② | ア、優良 | イ、希望 | ウ、解放 | エ、友好 |

二、次の文章を読んであとの各問に答えなさい。

科学者は、何もかもわかっている人間ではなく、「『現在、何がわかっていないか』を最もよくわかっている人間」なのです。わからないことを研究しているのが科学者なのです。だからこそ、「何がわかっていないかを正直に話すこと」が、科学者の責任なのだと思います。

アメリカのサンフランシスコで地震が起こり、高速道路が壊れました。そのとき、ある交通工学の学者が、「日本ではあんな事故は起きない」と絶対安全を保証しました。しかし、阪神・淡路大震災で高速道路がひっくり返り、彼は何も保証したことになっていませんでした。「これ以上の地震が起こったら、この高速道路は壊れます」というのが、本来の科学者の役割なのです。つまり、「私の知識の限界はここまでは、それを越える部分はこちらから保証できない」と言うべきだと思います。科学にかかわること「絶対」はないのです。私たちは、まだ自然現象の一部分しか理解しておらず、未知の部分があるかぎり、「絶対安全」などと「絶対に」言えないはず。 「わからない」と正直に語る科学者の方が、「わかっている」と得意げに語る科学者より信頼できるのです。

地震学者は、地震の予知ではなく、地震が起こった場合の防災にこそ、その知識が生かせるでしょう。地震の揺れから、規模や起こり得る災害を予測できるのです。だから、地震学者が中心になり、都市工学・交通工学・地方自治体・ライフライン（水道・電気・ガス）の管理者が共同して、地震防災体制を組むべきというのが私の意見です。そうしてこそ、^①科学者の社会的責任を果たすことになるでしょう。（中略）さて、日本では、原子炉は三〇基以上稼働していますが、これまでスリーマイル島やチェルノブイリのような大事故は起こさずにきました。その原因は、広島・長崎に原爆を落とされて核の恐ろしさをよく知っていること、自主・民主・公開の三原則をうたった原子力基本法があり、原子炉点検や事故に対し厳しく対応してきたこと、それらを基礎に「健全な反対派」が育っていることがあげられると思います（核の恐ろしさを知っていることを「核アレルギー」と悪口を言う人もいましたが、むしろ、アレルギーとは自分の体質に合わないものを拒否するので健康である証拠なのです）。

^{※2}「もんじゅ」の事故は、これまで大事故を起こさなかった原因が崩れつつあるのではないかと予感させます。特に、さまざまな情報が公開されず、秘密のうちに処理されていることが問題だと思います。科学や技術は、それまでの経験を積み上げてゆくものですから、起こった事柄は必ず X され、さまざまな科学者・技術者に継承されねばならないのです（失敗の結果も十分意味があるのです）。基礎的な科学分野では、結果は論文として発表し、誰でもが利用できるようになっていきます。使った資料も、要求があれば提供もしています。そのような方式

そが、科学を健全に発達させるからです。（中略）

原子力利用も同じように公開の原則が守られる必要があります。まだまだ多くの基礎的研究がなされる必要がある以上、いったん事故が起これば多くの人命が失われるでしょう。そのようなことを強く意識するならば、秘密が横行する原子力利用であってはいけないはずですね。ところが、原子力委員会に参加する科学者、動力炉・核燃料事業団の科学者・技術者は、秘密主義に手を貸しています。「素人に情報を公開しても、不安をおおるだけ」という態度なのです。事故が起きた場合、何も知らされなくて、どのように対応せよというのでしょうか。

先の地震学者のなすべき役割と同じで、^②原子炉の設計者や製作者は、原子炉事故の防災対策の中心になるべきだと考えています。その原子炉の限界点をいちばんよく知っているのは彼らであり、どのような事故が起これば、どのような被害が出るかを、最もよく知っているはずなのです。それが、原子炉という危険なものを作った科学者の責任であり、もつべき倫理^{※3}なのです。（中略）

私自身科学者でありながら、少しきびしく科学者を批判したのは、現在生じている環境問題などの地球上の矛盾は、結局科学の力で解決するしかないと考えており、真に科学の力を発揮するためには、科学者がしっかりした倫理をもつべきだと思ふからです。倫理の裏打ちがあれば、科学という行為は実に素晴らしい結果をもたらしてくれるでしょう。極論すれば、そのような科学者が出現することが、人類の未来にとっても重要なのです。

科学者の倫理をまとめておくと、真理に忠実であること、^{※4}虚偽や秘密主義を排除すること、科学の Y を語ること、何のための（誰のための）科学かを常に意識すること、科学をより広い観点からとらえること、そして科学の結果や影響を想像力でとらえること、などでしょう。それ自身は、決して難しくないのでありますが、^③ある立場に立ったり、ある状況に置かれると、守れなくなることが多いようです。その場合の最も重要な点は、やはり「自分は、真理に忠実であるか」を問い直すことではないでしょうか。私は、そのような倫理を身につけた、君たち若い科学者の出現を強く願っています。（中略）

かつては、「環境は無限」と考えられていました。 A 、環境の容量は人類の活動に比べて圧倒的に大きく、すべてを吸収処理してくれると思ってきたのです。 B 、廃棄物を平気で海や空に捨て、森林を切り、海や湖を埋立て、ダムを造ってきました。 C 、環境が無限でないことを、さまざまな公害によって学んできました。 D 、陸にも海にも砂漠化が進み（海にも砂漠化が進み、海藻が枯れています）、自

然の生産力が落ち始めています。確かに、このままの消費生活を続けると、地球の許容能力^{※5}を越え、カタストロフィー^{※6}が起るかもしれません。^④人類の未来は、環境問題の危機をいかに乗り切るにかかっていると信じていても過言ではないでしょう。二一世紀は、まさにこの課題に直面する時代となるに違いありません。

この環境問題の原因は、無責任に大量生産・大量消費の社会構造にしてしまった私たちの世代の責任であると考えています。自分たちは優雅で便利な生活を送りながら、その「借金」を子孫に押しつけているのですから。借金の最大の特徴は、原子力発電所から出る大量の放射性廃棄物でしょう。電気を使って生活を楽しんでいるのは私たちですが、害にしかならない放射性廃棄物を一万年にわたって管理し続けねばならないのは、私たちの子孫なのです。あるいは、熱帯林を切って大量の安い紙を使っているのは私たちであり、表土が流されて不毛の地となってしまう大陸や島に生きねばならないのは子孫たちなのです。環境問題は、すべてこのような構造をもっています。この点を考えれば、せめて子孫たちの負担を少しでも軽くするような手だてを打っていかねばなりません。

この地球環境の危機に対し、「原始時代のような生活に戻れ」という主張をする人がいます。大量消費が原因なのですから、それをやめればいいという単純な発想です。しかし、それは正しいのでしょうか。いったん獲得した知識や能力を捨てて、原始時代の不安な生活に戻るものなのでしょうか。生産力の低い生活に戻れば、どれほど多くの餓死者が出るのでしょうか。はたして誰が、それを命じることができるのでしょうか。たぶん、答えは、そんな知恵のない単純なものではないと思います。なすべきことは、現在の私たちの生き方を振り返り、いかなる価値観の変更が必要で、そのためには、科学がいかなる役目を果たすべきかを考えることではないでしょうか。

(池内了「科学の考え方・学び方」)

〔注〕 ※1 三〇基以上……………この文章が発表された一九九〇年代当時の稼働数。

※2 もんじゅ……………使用済み核燃料を再利用する高速増殖炉。ナトリウム漏れによる火災事故を起こしている。

※3 倫理……………道徳。人として守り行うべき道。

※4 虚偽……………真実ではないのに、真実のように見せかけること。うそ。

※5 カタストロフィー……………破滅。破局。

問一 傍線部①「科学者の社会的責任」とあるが、筆者の考える責任とはどのようなものか。それが分かる部分を本文中より十五字以上二十字以内で抜き出し、そのはじめとおわりの三字を答えなさい。(句読点やかっこなどがある場合は字数に含む。)

問二 空欄 A 〽 D に入る言葉として最も適切なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。(ただし同じ記号を二度選ばないこと。)

ア、しかし イ、また ウ、だから エ、ところで オ、つまり

問三 空欄 X ・ Y に入る言葉として最も適切なものを次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

〔空欄 X〕の選択肢〕
ア、共有 イ、記録 ウ、伝達 エ、公開 オ、報道
〔空欄 Y〕の選択肢〕
ア、未来 イ、性質 ウ、限界 エ、役割 オ、魅力

問四 傍線部②「原子炉の設計者や製作者は、原子炉事故の防災対策の中心になるべきだ」とあるが、具体的にどのようなことなのか。その説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、原子炉に関する情報は、素人に公開しても不明なことだらけなので、科学者や技術者にその対策を一任すること。
イ、原子炉にもしものことがあれば大災害を避けられないので、原子炉の仕組みや危険性などの情報を出来るだけ明かすこと。
ウ、事故が起これば、どのような被害が出るのかを科学者は一番よく分かっているので、一刻も早く原子炉を排除すること。
エ、原子炉は危険なものであり、それをつくった科学者は周囲に被害を与えないよう、悟られずに対策を行うこと。
オ、事故が起きた場合、その責任を誰がどのような形で取るのかを明らかにし、その対応に全力を注ぐこと。

問五 傍線部③「ある立場に立ったり、ある状況に置かれると、守れなくなることが多いようです」とあるが、その具体例となる一文を本文中から抜き出し、そのはじめの八字を答えなさい。(句読点やカッコなどがある場合は字数を含む。)

問六 傍線部④「人類の未来は、環境問題の危機をいかに乗り切るかにかかっていると、言っても過言ではないでしょう」とあるが、「危機」を「乗り切る」ために、どのようなことが行われなければならないと筆者は考えているか。筆者の考えが最も表れている一文を本文中から抜き出し、そのはじめの八字を答えなさい。(句読点やカッコなどがある場合は字数を含む。)

問七 傍線部⑤「環境問題は、すべてこのような構造をもっています」とは、どのようなことか。その説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、電気を使って生活を楽しんでいるのは私たちがだが、有害な放射性廃棄物を一万年も管理しなければならないのは子孫たちということ。
- イ、地球温暖化・オゾン層の破壊・熱帯林の減少・酸性雨・地球汚染など、環境問題はすべて人間の諸活動が引き起こしているということ。
- ウ、熱帯林を切って大量の安い紙を使っているのは私たちがだが、不毛の地となった大陸や島に生きねばならないのは子孫たちということ。
- エ、環境問題の原因は、無責任な大量生産・大量消費の社会構造にあり、その責任はそのような社会を作った私たち世代ということ。
- オ、優雅で便利な生活を送っているのは私たちがだが、その結果としてもたらされる「借金」を背負わされているのは子孫たちということ。

問八 筆者の主張としてあてはまらないものを次から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア、原子炉の設計者や製作者は、原子炉事故の防災対策の中心になるべきで、それが原子炉という危険なものを作った科学者の責任である。
- イ、環境問題の原因の一つは、無責任に大量生産・大量消費の社会構造にしまったことにあり、それは私たちの世代の責任なのである。
- ウ、人類誕生以来、地球は汚染されてきたと言われるが、人類も自然に生まれてきた以上、環境に影響を与えるのは当然というべきである。
- エ、環境問題は科学の力で解決するしかないのであり、真に科学の力を発揮するためには、科学者がしっかりと倫理をもつべきである。
- オ、人類はまだ自然現象の一部分しか解明できておらず、未知の部分があるかぎりには、科学者は安全を保証できないと明言するべきである。

三、次の文章を読んであとの各問に答えなさい。

「くっそ親父」

私は口の中で悪態をつく。そんな台詞でも吐かないと、今にも涙が溢れそうだった。

私は、国産ワインメーカーの営業部員である。就職して三年目だが、数ヶ月前までは事務を執っていた。

この春、会社が女性向けのリーズナブルなワインを社運を賭けて発売することになった。そのキャンペーンの一環として、今まで男性だけだった外回りの営業部員に、女性も起用しようということになったのだ。^{※2}

入社時から外回りを希望していた私は、即営業部に配属になった。そして、男性に比べたらまだ狭い地域ではあったけれど、ある地域の営業を任されることになったのだ。

私はそりゃもう、はりきった。

引き継ぎとして、先輩の営業部員について担当地域の酒屋と飲食店を挨拶に回った。

酒類業界はまだまだ男社会で、女性の営業マンは珍しがられた。「野郎が来るより明るくていいね」と言ってくれるおじさんもいたし、露骨に不安そうな顔をする人もいた。

①しかし「野郎が来るよりいい」と言っていた店主の後ろで、奥さんの醒めた目が私を見ていたことを見逃しはしなかった。

男であろうと女であろうと、新人であることには変わりない。とにかく、仕事ぶりで評価してもらおうしかないのだと私は自分に言い聞かせた。私は無我夢中で働いた。

その甲斐あってか、可愛がってくれる店もできた。注文も上司に叱られない程度には取れている。

しかし、どうしても一軒だけ、馴染んでくれない店主がいるのだ。大木屋酒店のあの親父だ。(中略)

いったい何がそんなに気に入らないのだろうか。

「最初に会った時は愛想がよかったんだろ、そのおじさん」

恋人は、居酒屋のカウンターに肘をついて私にそう聞いてきた。

「いいってほどじゃなかったけど、引き継ぎで挨拶に言った時は普通だったのよ。なのにその次行ったら急にAつつけんどんになっちゃってさ」ふうんと彼は言って、飲みかけのサワーに口をつける。

「気難しい人の一人や二人はいると思ってたから、絶対このオヤジと仲良くなってやるって最初はファイト湧いたんだ。でも何か疲れてきちゃった」

私は焼き鳥をかじって溜め息をついた。

彼とは大学時代からの付き合いだ。おとなしくおっとりした性格で、いつもこうして私の愚痴を聞いてくれる。

まわりから見れば、うるさいぐらい元気な私の尻に敷かれているように見えるだろうが、実はまったく逆なのだ。彼は確かに「俺についてこい」というタイプではないけれど、いつでもこうして私の話をじっくり聞いてくれるのだ。私は彼の前でだけは、安心して弱音を吐ける。彼は私の元気の素なのだ。

「いろいろ工夫してみてるんだけど、どれも効果がなくて」

「たとえば？」

「ええとね、とにかく用がなくても毎日顔は出してるの。それも、お客さんが少ない午後の二時頃って決めて。ほら、男の人が好きな女の人を口説くのに、毎晩同じ時間に電話をかけるのが有効だって聞いたことがあったから、それって営業活動にも使えるかなって思って」

「ふうん。あとは？」

「ノベルティだって他のお店より沢山持って行ってるし、前任の人からそのおじさんが昔野球やってたって聞いたから、自腹切って巨人戦のチケットをプレゼントしたりね」

「おっさん、阪神ファンだったらどうする？」

彼の何気ない一言に、私はビールを飲む手を止めた。

「……まさか、それが原因で」

「さあねえ。でも、そういうプレゼント作戦っていうのは、あんまりよくないんじゃないの」
ネクタイを緩めながら、彼は言った。

「どうしてよお。他の男の人達もやってるよ」

「俺は事務職だから営業のことはよく分からないけどね。俺がもし、その酒屋の隣街の酒屋のおやじだったらさ、あの営業さんは大木屋さんだけ最良してるって思っちゃうなあ」

「……そう言われればそうね」

「いや、悪いって言ってるんじゃないんだ」

「言ってるじゃない」

私は唇を尖らせる。

「ごめん、ごめん。大丈夫だよ、衿子は一生懸命やってるんだから、いつか誠意が伝わるよ」

「そうかな」

「大丈夫。また明日から頑張ろうな」

ぽんぽんと頭を叩かれて、

1

ら思った。

彼がいてくれるから、彼がこうして励ましてくれるから頑張れるのだと、私は心か

「ちなみに、衿子。その恰好で外回りしてるの？」

彼はふと私のスーツを指さした。私は首を傾げる。

「そうよ。身だしなみはキチンと、清潔感のある服装で。営業の基本よ」

私はリボ払いで買ったご自慢のキャリアスーツを見下ろした。

「でも、酒屋を回るんだろう。その恰好じゃワインのケース運んだり、棚の整理とか手伝えないじゃない」

私は彼の悪気のない顔をしみじみ見た。

彼の言うことは、いつでも正しい。

2

翌日、私はまた大木屋酒店を訪れた。

時間はいつもの午後二時だ。

今日の私は「武装」していて、足取りも勇ましく店へ足を踏み入れた。

「お世話になってます。ヒシマル商事の滝本です」

私はいつものように挨拶しながら店に入っていく。レジスターの奥にある、住居への引き戸が開いて店主が顔を出す。その顔にいつもと違う

「おや」という表情が浮かんだ。よしよし、と私は思った。

今日の私は、いつものスーツの上にウィンドブレーカーを着ている。足元もパンプスでなくウォーキングシューズだ。恋人に言われて「汚れてもいい恰好」をしていこうと思ったのだが、いくら何でもジーンズとトレーナーじゃ失礼なので、スーツの上に汚れてもいい上着を羽織ったというわけだ。

「こんにちは。うちのワイン、出ましたでしょうか」

店主はとたんに嫌な顔になる。

「さあね。知らないよ。忙しいんだから、帰ってくれ」

私が何か言う前に、ピシヤリと引き戸が閉じられた。いつものこととはいえ、私は言葉を失い立ちつくす。

(中略) 私はワインの棚をチェックした。昨日見た時より三本減っている。売れたのだ。私は思わずにやけてしまう。

軽自動車に何本か予備のワインを積んでいるので、できれば補充したかった。けれど注文もされていないのに無理に置いていくわけにもいかない。

私は溜め息まじりに他の陳列棚を見渡した。動きの早いビールやソフトドリンクの棚はきれいだが、高い洋酒や日本酒の棚にうっすら埃が積もっている。

私は持参してきていた雑巾をジャケットのポケットから取り出すと、一本一本瓶に積もった埃を払った。(中略)

店の奥の戸は、閉まったままではんの少しも開かなかった。

「なーんかもう、自信なくなっちゃったなあ。転職しちゃおうかなあ」

いつもの居酒屋のカウンターに私はへたった。恋人はこれまたいつものように、静かにサワーを飲んでいる。

「椅子らしくないなあ。そういう言い方は」

微笑んで彼はそう言った。

「だけどさー、思いつく限りのことはしてるし、誠意だって目一杯尽くしてるつもりなのに、どうして無視されちゃうんだか分からないのよねえ」

私はぐーっとコップの中のビールをあける。

「女だからかなあ。女嫌いなのかなあ、あのおじさん」

「女だからって思っちゃったら負けだって、前に自分で言ってただろ」

彼は私が以前言ったことを本当によく覚えてる。そうだ、私がそう言ったのだ。

「じゃあ、何だろう？　うちのワインっておいしいのよ。値段もお手頃、ボトルもお洒落。コマーシャルだってガンガンやってるのに。ちょっとマスター、どうしてこの店、うちのワイン置いてないのよ」

目の前で焼き鳥を焼いているマスターに、私はふざけてそう言った。彼は酔っぱらいの戯れ言には慣れてるので、片頬で笑っただけだ。

「あーあ、もうやんなっちゃうなあ。毎日顔出すのがしつこいと思われて逆効果なのかなあ。もう考えれば考えるほど分からないや」

カウンターに肘をついて、くしゃくしゃ髪をかき混ぜた時に、隣に座った彼がふと口を開いた。

「なあ、毎日同じ時間に行ってるんだっけ」

「うん、午後の二時に」

「時間かもよ」

え？　と私は顔を上げる。

「椅子って毎晩十一時に風呂に入るじゃない。前に俺、電話して怒られたことあるよ。どうして長く付き合ってるのに、人がお風呂入る時間ぐらい分からないのよって」

それかもしれない。忙しいから帰れ、というのは私を追い払う口実だと思い込んでいたけれど、午後の二時に、あの店主は本当に忙しいのではないだろうか。

翌日、私は試しに午後の三時に大木屋酒店を訪れた。

(中略) 店主はそこにあった小さな椅子に腰掛けると、うちのワインが置いてある棚を指さした。

「昨日、また二本出たよ。補充してくれや」

「は、はいっ！」

あんまりびっくりして、

あー、笑った！

泣いてばかりの赤ん坊が、やっと笑ってくれた時のような嬉しさがこみ上げてきた。それだけのことに私は今にも泣きそうだった。

「あの、変なことを伺っていますか？」

店主の機嫌が変わらないうちに注文を取ってとっと帰った方がいいと思いつつも、私は自分の中にある大きな疑問を口に出してしまった。

「おう、なんだ？」

「二時っていう時間が、あの、そんなにいけなかったんでしょか」

店主は私の問い掛けに、また頬を歪めた。④ 今度は苦笑いに近い。

「まあな、毎日二時にカカアから電話がかかってくるんでな」
カカア。そういえば、この店の奥さんを見かけたことがなかった。どこか別の場所に住んでいるのだろうか。それで毎日午後二時に電話をし
てくる？ いったいどういう事情なのだろう。

店主はゆっくり煙草に火を点けると、天井に向かって煙を吹き出す。

「娘がな、アメリカ人と結婚してロサンゼルスに住んでるんだよ」

「……は？」

「反対したよ、俺はよ。それなのに無理矢理行っちゃいやがって。それで赤ん坊ができたはいけど、無理して働いてからだ壊して入院だよ」
私は意外な話の展開に目を見張った。

「うちのカカアがいてもたってもいられなくなって、あっちに行ってた。俺は店があるから行けねえからな。そいでまあ、あれだ、この前大き
い手術してよ。カカアが毎日様子を電話してくんだよ」

「そ、それでお嬢さんは？」

「ああ、なんかね、さっきの電話で退院の日が決まったとかでね」

店主はそう言ってかすかに笑う。今度の笑みは皮肉の混じっていない、本当に嬉しそうな笑みだった。

「すみませんでした」

私は深く頭を下げた。毎日二時にかかってくるその電話を、彼はどういう気持ちで待っていたか想像すると、私は消えてなくなりたいほど
恥ずかしかった。何故彼の「忙しい」という言葉の裏にあるものを、ちゃんと考えなかったのだろうか。

「いいよ、別に」

店主は灰皿に煙草を押しつけた。

「あんたに限らないけど、営業の人間は自分の仕事のことばかり喋る奴が多くてね。聞く耳ってもんがないんだよな。正直言ってあんた見
てうんざりしてたよ。キンキン声でうちのワインは売れましたかって、人の顔見りゃ言いやがって」

私は返す言葉がなくて、しゅんとうつむく。

「でもまあ、最近あんたもいろいろ気を使ってくれてるのが分かってきてな。俺もまあ、娘のことで気持ちの余裕がなかったから」
下げたままの頭を、私はあげられない。泣いた顔を見られたくなかった。

「これからもよろしくな」

ぼんと店主が私の肩を叩いた。

「へええ。そんな事情があったのかあ」

恋人は私の話を聞いて、感心した声を出した。

「そうなのよ。まだまだ私、修行が足りないみたい」

彼はにこりと笑ってサワーに口をつける。

「じゃあもう、転職なんて考えてないんだろう」

「もちろん。ねえ、それより最近どう？ 仕事は大変？」

私は隣に座る恋人にそう聞いた。彼は少し驚いた顔で私を見る。

「今日は何か変わったことあった？」

長く隣に座っていた彼に、私はそう質問したことが今まであっただろうか。自分のことばかり喋っていて、彼の話を聞こうとしたことがあ
っただろうか。

「うん。最近上司が変わってね。その人大阪から来た人なんだけど」

私はカウンターに肘をついて、彼の横顔を眺めた。

⑧ 気がついてよかった。気がつかなければ、私はもしかして一番大切な人を失っていたかもしれない。

酔いでぼんやりした頭に、恋人の声が心地よく響く。

プロポーズは私からしようと、その晩私は決心した。

(山本文緒「話を聞かせて」)

[注]

※1 リーズナブル…価格が手ごろなさま。

※2 外回り…会社の外に出て、取引先から注文を受け取る社員のこと。

※3 野郎…男性を意味する語。

※4 ノベルティ…広告・宣伝のために社名や商品名などを入れて、無料で配布する品物。

※5 リボ払い…毎月設定した一定金額を返済していく方式。月払い。

※6 パンプス…女性用の靴の種類の名称。かかとが高い靴。

※7 戯れ言…ふざけて言う言葉。冗談。

問一 波線部A「つつけんどん」・B「感心」の文中における意味として、最も適切なものを次からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

A「つつけんどん」

B「感心」

- ア、怒っているような顔付き。
イ、うんざりしている様子。
ウ、気難しくて頑固な口ぶり。
エ、冷たい態度をとる様子。
- ア、強く感じて、心が動くこと。
イ、心が引かれて、注意を向けること。
ウ、不安や恐怖でぞっとすること。
エ、うれしく、興奮すること。

問二 空欄 1 4 には、次の選択肢 a～e のいずれかが入る。組み合わせとして最も適切なものを、ア～エより選び、記号で答えなさい。

〔選択肢〕

- a、私は思わずにやけてしまう。
b、私は大きい声を出してしまった。
c、私がつくり肩を落とした。
d、私は大きく息を吸った。
e、私は嬉しくて目を細める。

ア、e/b/a/d イ、c/e/d/a ウ、e/c/d/b エ、b/a/e/d

問三 傍線部①「男であろうと女であろうと、新人であることには変わりない。とにかく、仕事ぶりで評価してもらうしかないのだと私は自分に言い聞かせた」とあるが、「私」のこのような考え方がよく表れている表現を、本文中から十五字以上二十字以内で抜き出し、そのはじめとおわりの三字を答えなさい。(句読点やカッコなどがある場合は字数に含む。)

問四 傍線部②「そういうプレゼント作戦っていうのは、あんまりよくないんじゃないの」とあるが、「彼」がそのように考えるのはなぜか。その理由の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、プレゼントを渡している酒屋と渡していない酒屋では、売り上げの格差が生じてしまうから。
イ、特定の酒屋だけにプレゼントを渡していると他の店主から勘違いされ、不信感をもたれてしまうから。
ウ、プレゼントは営業で最も有効な手段であり、同じような手法は他の業者も行っており、あまり効果がないから。
エ、巨人戦のチケットを渡しても、店主が阪神ファンである可能性もあり、喜んでくれるかわからないから。

問五 傍線部③「今日の私は、いつものスーツの上にウィンドブレーカーを着ている。足元もパンプスでなくウォーキングシューズだ」とあるが、このことを別の言葉でどのように表現しているか。本文中から五字以内で抜き出して答えなさい。(句読点やカッコなどがある場合は字数に含む。)

問六 傍線部④「今度は苦笑いに近い」とあるが、ここには店主のどのような気持ちが表れているか。その説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、「やっと分かったのかい。だから、何度も『忙しい』って言ったじゃねえか」という、「私」の理解とその遅いことへの、皮肉な感情が入り混じった気持ち。
イ、「あなたには事情を話してねえんだから、分からなかったのはしょうがねえんだけどな」という、「私」には何も説明してこなかったことを反省する気持ち。
ウ、「本当はあなたに話すようなことじゃねえんだけど、まあしょうがねえから教えとくよ」という、「私」に家庭の事情を説明することを照れ臭く思う気持ち。
エ、「二時がダメってのが分かったのはいいけど、それ以上は何もわかってねえだろ」という、「私」への皮肉を込めて本当のことを教えてやろうという気持ち。

問七 傍線部⑤「私は消えてなくなりたいほど恥ずかしかった」のはなぜか。その理由の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

- ア、「忙しいから帰れ」というのは「私」を追い払う口実だと思込んでいて、店主が「午後の二時」に本当に忙しいなどと少しも考えたりしなかったから。
イ、店主が「忙しい」と言う事情を考えようともせず、いろいろと工夫して誠意を持って接しているのに、何が気に入らないのかとばかり考えていたから。
ウ、店主が「忙しい」理由を知らなかったとはいえ、「忙しい、忙しい」と言う店主に腹を立てて、車の中で「くっそ親父」と悪態をついたりしていたから。
エ、慣れない外国で体を壊し、大きな手術を受けて入院している娘の所へ行くこともできず、遠い日本で心配している店主の気持ちを考えもしなかったから。

問八 傍線部⑥「最近はあんたもいろいろ気を使ってきてるのが分かってきてな」とあるが、それはどのようなことを指しているか。その内容の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、「私」が、とにかく用がなくても毎日大木屋酒店に顔を出していて、しかも、午後のお客さんが少ない時間に訪ねるように気をつけていること。

イ、「私」が、大木屋酒店には、他のお店よりノベルティを沢山持って行ったり、自腹を切って巨人戦のチケットをプレゼントしたりしていること。

ウ、「私」が、汚れてもいい恰好をして大木屋酒店に訪ねて行き、陳列棚の中に埃が積もっているお酒の瓶があったら雑巾でふいたりしていること。

エ、「私」が、「午後の二時」には店主は忙しいのではないだろうかと思いついて、大木屋酒店を訪ねて行く時間を「午後の三時」へと変更したこと。

問九 傍線部⑦「彼は少し驚いた顔で私を見る」のはなぜか。その理由の説明として最も適切なものを次から選び、記号で答えなさい。

ア、転職しようかと悩んでいた「私」が、「彼」の仕事のこともきちんと理解していたから。

イ、「私」と酒屋の店主との関係が、意外な理由により修復されたことに「彼」が困惑したから。

ウ、いつも「彼」の仕事については聞いたりしない「私」が、今日は珍しく質問してきたから。

エ、「彼」の上司が変わったため最近仕事が大変だということに、「私」が気づいていたから。

問十 傍線部⑧「気がついてよかった」とあるが、「私」は何がきっかけで、どのようなことに気がついたのか。六十字以上八十字以内で分かりやすく説明しなさい。(句読点やカッコなどがある場合は字数に含む。)

